

山行番 NO. 1660
日時 2015. 10. 18 (日・無風快晴)
山域 赤岳(2899m) 県界尾根～真教寺尾根
コース 下土狩発4:30-甲府-須玉IC-清里サンメドウスキー場発6:50-大天狗8:59-最初の鎖場9:40-赤岳北峰10:37-南峰10:40-竜頭峰-真教寺尾根分岐10:58-鎖場終了下(昼食)11:40~12:18-扇山13:03-牛首山13:13-大門沢分岐14:20-大門沢-駐車場14:28-下土狩18:30(富士宮渋滞あり)
標高差 上り=清里サンメドウスキー約1670m~赤岳2899m=約1229m
下り= "
参加者 後藤、小松、掛橋、梅田=4名

赤岳の上級ルートを上り下る

今週末は、当初、甲斐駒・鋸岳だったが、土曜日悪天候で、結局、日曜日帰りで赤岳になった。やるなら、久しぶりに県界尾根～真教寺尾根。赤岳で最も厳しいルート。メンバー的には問題ない。先日入会した、梅田氏も初参加。

快晴の甲斐路を飛ばす。清里サンメドウスキー場には、2時間ちょっとで到着。ここでは、水洗洋式トイレを利用出来た。中に休憩場があった。その後、車で更に上り登山口着。車は路上に置く。回りは、唐松の紅葉が素晴らしい。遥か頭上に赤岳が聳える。

ソロソロと出発。早朝起床だったが、体調はマアママ。県界尾根に上がるまで、急登が続く。県界とは、「**甲斐・信州の県境**」を指す。尾根に立つと展望が素晴らしい。この景色は、普段上る赤岳西側では堪能出来ない東面独特なものだ。勿論、振り返れば、富士が大きい。しかし、360度の展望は見事である。



赤岳



尾根の向こうの富士

途中展望の良い所に、まだ新しい「真言宗智山派修験行者有志・霊峰八ヶ岳登拝修行碑」の木札があった。9月17日～18日と記されている。宿泊で来たようだ。だから、私もそれに向かい、少しお経を唱えた。なだらかな上りが終わると、尾根は急激に上昇に転じ、最初の鎖場40mが立ちはだかっていた。

ヘルメットを持たない女性1名を含む、登山者が4名、思案顔で座っていた。左壁の方に上り、ルートを探したりしている。先に行くことを告げ、私がトップで上り出す。鎖場は、腕力に頼らず、あくまで「足で上る」が基本。いたずらに腕力に頼った登攀は、事故の元。

快適に上る。その上も浅いルンゼ（岩溝）に鎖が続いていた。鎖場は急だから、グングン上ると息が切れる。上り切ると展望が開け、横岳・天望荘・稜線に行く登山者・頂上山荘が見えた。この上で、男子の若い衆3名に抜かされた。元気イッパイ。ただ、若い衆は、ヘルメット被っていなかった。脆い岩場が続く、このルートでは、ヘルメットは必携。

赤岳頂上小屋の下、最後の最後まで、鎖場が続いた。これを上ると赤岳北峰に到着。何故か、物凄い人々。写真を撮り南峰に行く。ここも凄い人。おまけに「黒猫」が一匹。小屋の猫だろうか??!!

時間的には、昼食だが人が多すぎる。真教寺尾根を下る。真教寺尾根分岐の標識が文三郎尾根に下る登山道になく、ちょっと分かり難かった。地図で確認。

赤岳直下から竜頭峰に向かい、ここを下ると、キレット小屋（権現岳方面）と、真教寺尾根分岐標識があった。直下から延々と鎖場が続く。県界尾根より多く長い。鎖が太いものは、重く扱いが厄介。細いものは、掴みやすく、扱い易い。女性は太いのは、大変だろう。

延々と鎖場を下る、途中、男性3名に会った。一人のオジサンは「急ですね」と、ややバテ気味。我々と同じ、朝、スキー場から来たというが、ちょっとペースが遅い。

11時半を回り、相当空腹。最後の鎖場を済ませ、乾いた草付きの温かい場所で、ようやく昼食。悪い所は終わったので、ビアを頂いた。美味しかった・・・しばし、平和な時間が流れた。昼食は、稲荷寿司4個。珍しく全て食べた。他、茹で落花生・手羽先。サイコーに美味しい昼食だった。「**厳しい山ほど、粗食は駄目**」が、私のモットー。疲れた「**脳**」に十分栄養を補給する。この間、若い衆が3～5人下って行った。

午後は、ブラブラ下るのみ。扇山と牛首山の上り返しがある。下部は唐松の黄色と躑躅の赤紅葉が見事だった。スキー場上の広場から、県界尾根に通じる、大門沢に下るルートがあった。昔は無かったので、スキー場を下った。スキー場を夏下るのは、なかなか大変。私が使っている、2008年版「山と高原地図」には、このルートは表記されていない。

従って、このルートは比較的新しいモノ。でも、これが出来て非常に楽になった。有難い。既に終わった「**ジゴボウ**」（鼻猪口）を惜しみつつ、グングン下れば、今朝通った道に出た。下り切れば、駐車場。「**厳しい山だったが、イイ山だった。サイコーだった**」。こんな山をずっと、続けたいものである。

小松さんは、夏に初めて「**女子孫**」が生まれ、暫く山に行けず「**長過ぎた夏休み**」だったが、頑張って歩いた。掛ちゃんは、「**岩場・鎖場の扱いが、大分上手になった**」。梅田さんは、「**初参加・初コースだったが、流石に強い**」。

スキー場で朝のトイレを利用。かなりの車だった。リフトで紅葉狩りのようだ。これは、私達には出来ない。清里は、更に紅葉が、午後の陽光に光り輝いていた。今、美しい季節である。

参加者ひとこと（到着順）

掛橋 「上りのクサリ場で足がピクピクしてヤバかったです。クサリ場の上り下り勉強になりました。ありがとうございました。」

梅田 「10月より縁あって裾野麗峰に入会しました、香貫の梅田と申します。今回山行に参加して、秋の真教寺・県界尾根は初めてで落葉松林の紅葉が綺麗でした。
メンバーは、足が揃っていて天候・紅葉・メンバーと三拍子そろった快適山行を堪能出来ました。
土・日・祭日山行しか参加できませんが今後とも宜しくお願いします。」

小松 「長～い夏休みから、久方ぶりの長い鎖場の山行に参加して心身共にリフレッシュできました。ありがとうございます。なぜかしら、月曜日は、ロボット歩きとなりました。」



最初の鎖場



赤岳北峰



赤岳南峰

頂上の黒猫



赤岳直下



下部鎖場

昼食



牛首山



唐松紅葉



真言宗智山派修験行者有志のお札

星鴉（ホシガラス）
ガーガー、煩い（笑い）



<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9B%E3%82%B7%E3%82%AC%E3%83%A9%E3%82%B9>